

使ってなっとく！「はばたく群馬の指導プラン」(学級活動)編

「はばたく群馬の指導プラン」第Ⅱ章を活用して、学級活動の活動内容(2)の特質に応じた「本時の活動(話し合い活動)」を授業構想した例を紹介します。

指導プラン

題材 **すてきな言葉** (小3年・10月)
(ウ) 望ましい人間関係の形成

ねらい 友達とよりよい関係になる言葉のつかい方について、実践目標を自己決定することができる。

活動内容の特質を確認する

1単位時間の基本的な授業の流れは、【**集団思考**を生かした個人目標の自己決定】なのね。



< 1単位時間の授業のつくり方 P.128 > 抜粋

内容	(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」(小学校) 「適応と成長及び健康安全」(中学校)
過程	(3)「学業と進路」(中学校) 「みんなと共に考え、自分で決定し、自分で取り組む活動」
本時の活動	【 集団思考 を生かした個人目標の自己決定】 6 話し合い活動 ① 導入 (活動の開始) ・ 問題の把握 (意識化、共通化) 【 集団思考 】 ② 展開 (活動の展開) 【 集団思考 】 ・ 問題に対する原因の追求 ・ 解決方法の工夫 ③ まとめ (活動のまとめ) ・ 自分としての実践目標や解決方法の自己決定 【 自己決定 】 ・ 実践への意欲化

【自己決定】 → 【集団思考】 の順で授業を構想してみましょう！

自己決定とつながる集団思考をさせるためには、自己決定の姿を具体的にし、話し合いの内容を決めることが大切です。

指導プラン

① 自己決定の姿を具体的にイメージする

自己決定

「気持ちのよい言葉」を知るだけでなく、それをつかう場面も考えさせないとよりよい友達関係は築けないわ。本題材では、「どんな気持ちのよい言葉(何)を」「どんな場面で(どのように)」という視点を与えて具体的に決めさせよう。

< 活動内容(2)(3)の指導例 P.130 > 抜粋

※自己決定の仕方
児童生徒一人一人が、個別に、自分に適した実践可能なことを具体的に決めるようにしましょう。
☆大切な視点☆
「何を」「いつまで」
「どれくらい」「どのように」
単なる感想に終わらないようにしましょう。



自己決定のイメージ

ぼくは、友達が失敗したときに、『だいじょうぶだよ』と励ましの声をかけよう。



② 自己決定とつながる集団思考 (話し合いの内容) をイメージする

集団思考

友達に「いやな言葉」をかけた場面を想起させて、その時にかける言葉で状況がどうなるか話し合わせれば、「場面」に応じて「気持ちのよい言葉」をつかうよさや改善の必要性を実感できるわ。

問題に対する原因の追求

友達が失敗したとき『何やってる』と言ったら仲よくなれないよ。そんなときはどんな「気持ちのよい言葉」をかけるといいのかな。

「いやな言葉」をかける場面で代わりにつかえる「気持ちのよい言葉」を話し合わせたり、「気持ちのよい言葉」をかける「場面」を話し合わせたりすれば、学級で多くの解決方法が見付かるわ。

解決方法の工夫

『どうしたの』と失敗した友達に声をかければ仲よくなれるのだな。『だいじょうぶ』は友達が困っているときや失敗したときにつかえるのだな。



【**集団思考**を生かした個人目標の自己決定】という話し合いの流れができたわ。

